

2019年2月期 決算説明会資料

サインポスト株式会社



2019年4月16日

目次

1. 2019年2月期 決算概況
2. 2020年2月期 通期見通し
3. 事業内容
4. 参考資料

1. 2019年2月期 決算概況

1-1. 2019年2月期の取組み方針（2018年4月公表）

- ◇ 金融機関を中心としたコンサルティング事業は、幅広いニーズに応え、引続き着実に成長させる。
- ◇ ソリューション事業、イノベーション事業については、現在がディープラーニングの技術革新期であることより、今後の飛躍的成長を見据えイノベーション事業に傾注。
- ◇ イノベーション事業に関しては、事業展開を加速するため、自社内の体制強化や製品開発および利用各社との提携を推進。

1-2. 2019年2月期 決算ハイライト ～前期比～

(単位:百万円)

	2018年2月期	2019年2月期	前期比	概要
売上高	3,024	2,684	△11.2%	- コンサルティング事業は堅調に推移 - イノベーション事業の体制強化にソリューション事業の要員を充当 - 前期にイノベーション事業の権利許諾に関する一時金を計上 - 実証実験等に伴う研究開発費の増加
コンサルティング事業	2,109	2,348	11.3%	
ソリューション事業	832	319	△61.6%	
イノベーション事業	83	16	△80.0%	
営業利益	370	272	△26.6%	
経常利益	357	269	△24.6%	
当期純利益	245	203	△17.1%	

1-3. 2019年2月期 決算ハイライト ～計画比～

(単位:百万円)

	2019年2月期 期初計画	2019年2月期	計画比	概要
売上高	3,126	2,684	△14.1%	・ イノベーション事業の体制強化にソリューション事業の要員を充当 ・ ワンダーレジの販売権付与に伴う権利金の会計処理の変更 ・ 無人AIレジの受注に遅れ ・ 実証実験に伴う研究開発費の増加
コンサルティング事業	2,410	2,348	△2.6%	
ソリューション事業	508	319	△37.0%	
イノベーション事業	208	16	△92.0%	
営業利益	401	272	△32.1%	
経常利益	398	269	△32.3%	
当期純利益	258	203	△21.1%	

1-4. 2019年2月期 トピックス

□ コンサルティング事業

- 大型の勘定系システム更改プロジェクトが完了
- 金融機関5行、Fintech企業1社から新規契約を受注

□ ソリューション事業

- 金融機関向けバッチ高速化ソリューションの開発を継続
- 事業性評価サービスを提供
- 文字認識技術の開発

□ イノベーション事業

- JCB高田馬場オフィスで「ワンダーレジ」の実証実験を実施
 - ・ 導入効果が確認できたため、正式導入が決定
- JR赤羽駅で「スーパーワンダーレジ」の実証実験を実施
 - ・ JR東日本スタートアップ株式会社と合併会社設立で基本合意
- トッパン・フォームズ株式会社に対してワンダーレジの販売権を付与
 - ・ 共同でワンダーレジの販売、保守、運用体制を構築

1-5.(1) ワンダーレジの実証実験の結果

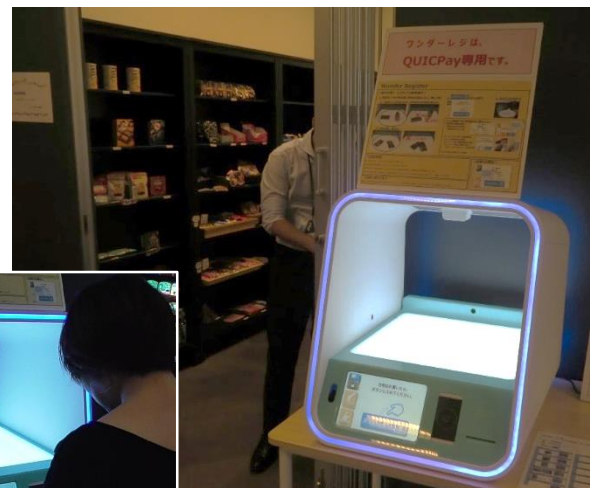
- 実証実験にて導入効果が確認される
- 3台全てが4月1日から正式に採用

① 効果

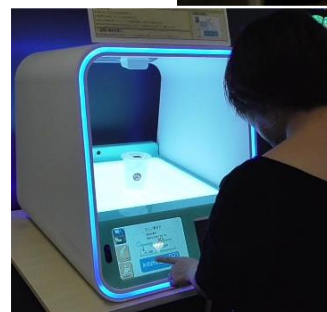
- ・ 無人運用を実施し売上が増加
- ・ レジ業務の効率化により販売要員が減少

② 利用状況

- ・ 最大で店舗利用者の8割がワンダーレジを使用
- ・ 操作が簡単で、有人レジよりも早いとの評判



売店コーナー



実施概要	
場所	JCB高田馬場オフィス内
期間	2018年9月28日～2019年3月31日
設置台数	3台
用途	① 売店コーナー ② 弁当コーナー ③ デリコーナー
決済方法	QUIC Pay



弁当コーナー

1-5.(2) スーパーワンダーレジの実証実験の結果

- システムの改良を継続的に実施
- システム全体の精度が大幅に向上
- 運用ノウハウを蓄積
- JR東日本スタートアップ株式会社と無人決済店舗の実用化に向けた合弁会社設立で基本合意



実施概要

場所	JR赤羽駅 5、6番線ホーム特設店舗
期間	2018年10月17日～2018年12月14日
店舗面積	約21㎡
販売商品	飲料、ベーカリー、菓子等 約140種類
決済方法	交通系電子マネー

2. 2020年2月期 通期見通し

2-1. 2020年2月期 方針

- コンサルティング事業を着実に成長させるとともに
無人AIレジ事業を積極展開
- リスク管理等事業の広がり合わせた経営態勢を確立

〔コンサルティング事業〕

金融機関を中心とした幅広い顧客からのニーズに応えるべく体制を整備

〔ソリューション事業〕

バッチ高速化ソリューション「ユニケージ」等の既存ソリューションの提供
サインポスト独自の文字認識ソリューションを展開

〔イノベーション事業〕

無人AIレジの導入を加速するための経営施策を迅速に実施
社会問題である人手不足の緩和を企図

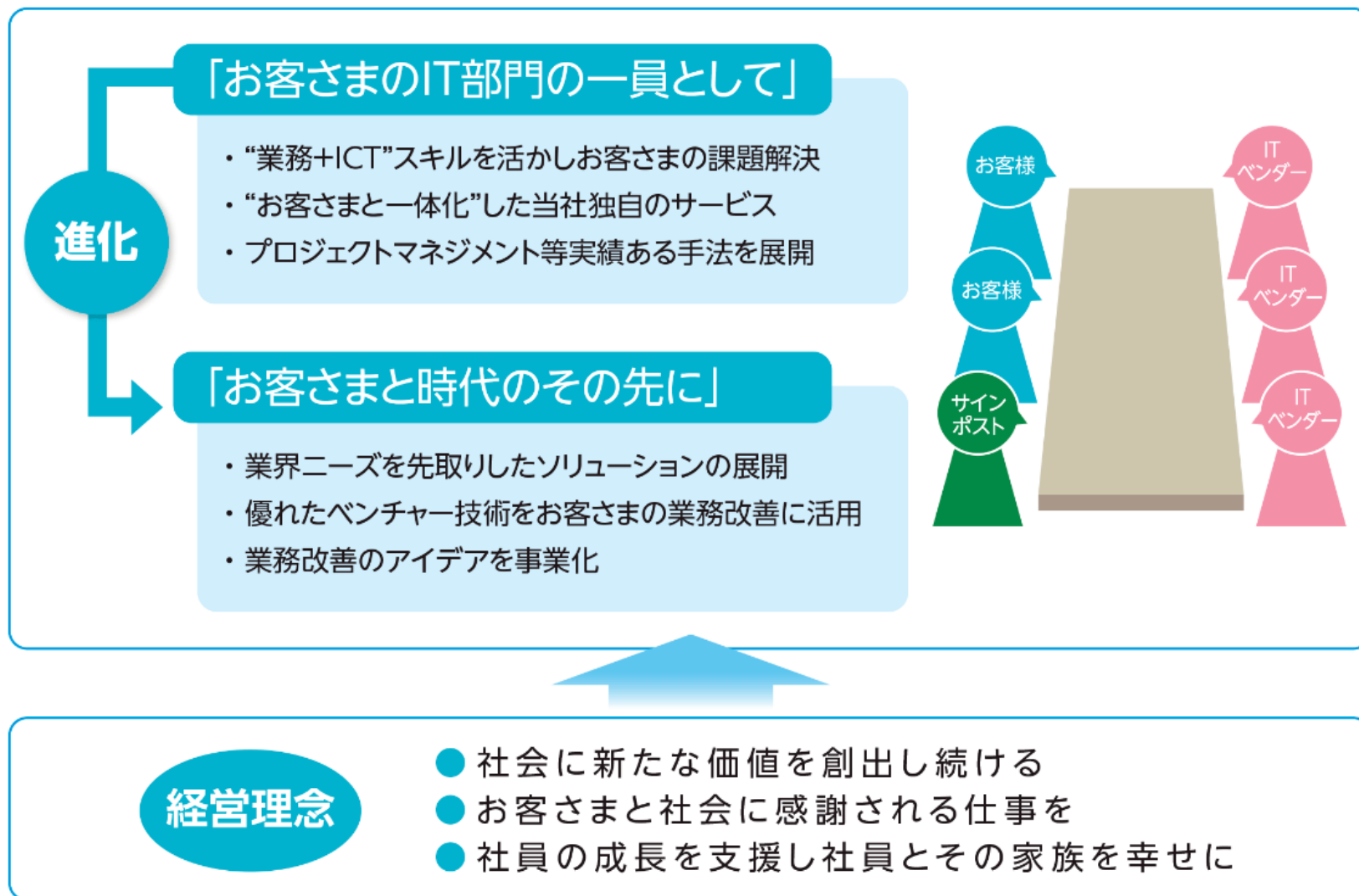
2-2. 2020年2月期 通期見通し

(単位:百万円)

	2019年2月期	2020年2月期計画	前期比
売上高	2,684	3,250	21.0%
コンサルティング 事業	2,348	2,500	6.5%
ソリューション 事業	319	355	10.9%
イノベーション 事業	16	395	2,270.0%
営業利益	272	365	34.1%
経常利益	269	363	34.8%
当期純利益	203	236	15.9%

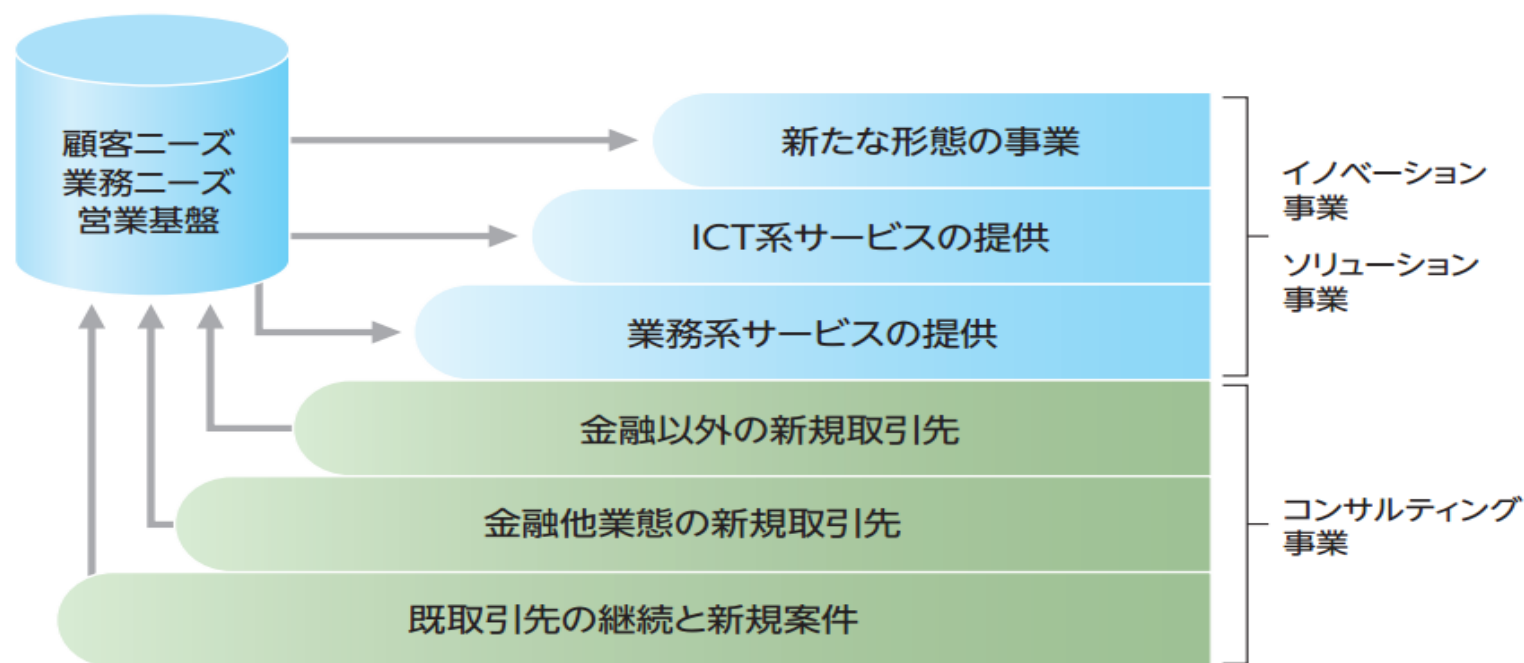
3. 事業内容

3-1. 事業の概況



3-2. 事業説明

当社は「コンサルティング事業」、「ソリューション事業」、「イノベーション事業」の三つの事業セグメントで構成され、各事業が相互に関連性を持ちながら事業を展開しています。コンサルティング事業の安定的かつ成長性のある事業運営をベースに、そこで培った顧客ニーズや業務ニーズ、営業基盤を活かしながら、新たなサービスの提供や他業態に対してサービスを提供するソリューション事業とイノベーション事業を展開しています。



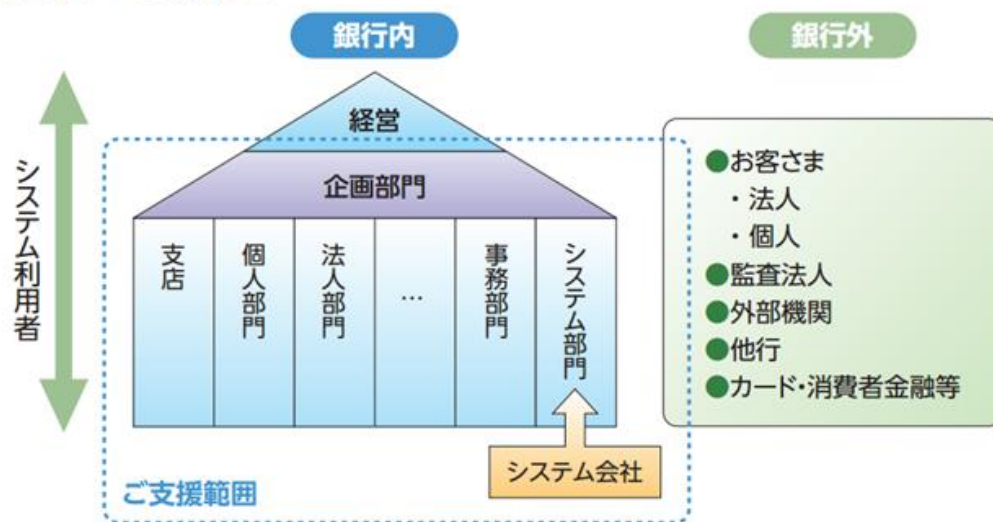
3-3. 事業概要 ～コンサルティング事業～

当社のコンサルティング事業は、社会インフラであることから情報システムに対する品質への要求水準が一般企業と比べて高い金融機関及び公共機関向けに業界を絞り、専門性を高めたサービスを展開しています。

当社は、第三者的な立場ではなく顧客企業の組織の一員(＝当事者)として、情報化戦略、システム化構想、業務改善等を提案し、システムの企画・設計・開発・運用の実行支援やマネジメント支援を通じて、問題解決まで主体的に対策を実行する点に特徴と優位性があると考えており、顧客企業の課題解決に貢献しています。

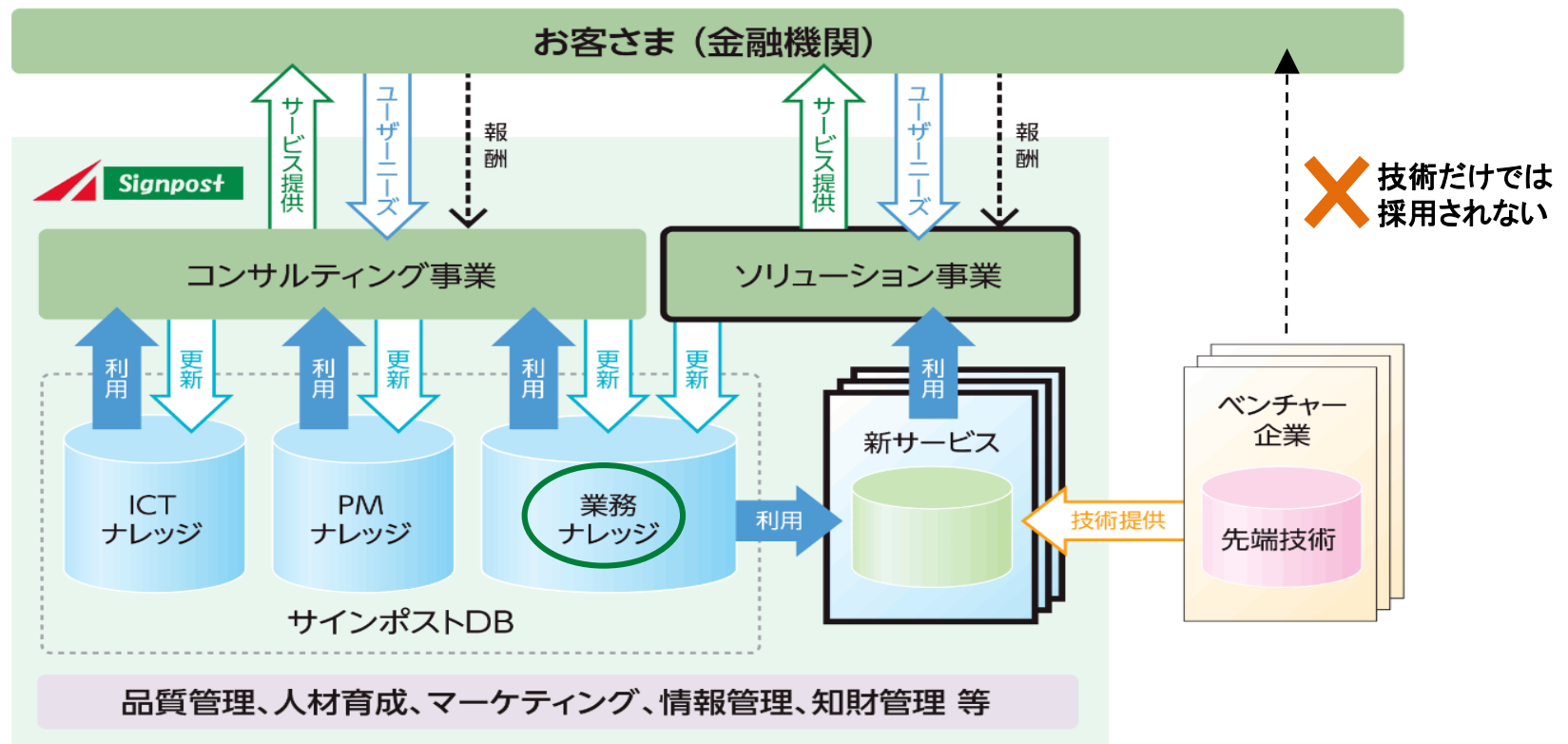
また、当社はシステム部門のみならず、顧客企業の経営や各業務部門から顧客企業外の関係者の対応まで幅広く支援することで顧客企業の課題を本質的に解決し課題解決に必要な全領域を幅広く支援することから、数年間に渡って取引を継続する顧客先が存在しています。

当社の支援範囲



3-4. 事業概要 ～ソリューション事業～

当社が把握している顧客の抱える業務的な問題・課題を解決するために、コンサルティング事業で培った業務ナレッジとベンチャー企業が有している先端技術を応用し新たなソリューションを開発、提供しています。バッチ高速化ソリューション「ユニケージ」、事業性評価サービスに加えて、当社独自の文字認識ソリューションを提供しています。



3-5. イノベーション事業の取り組み

ディープラーニングによる画像認識技術を有する当社独自開発の人工知能「SPAI」を、様々な分野の人手不足解消や生産性向上に活用

■ 小売店舗の課題

- ・ 人手不足の解消
- ・ 機会損失の解消
- ・ 財務体質の改善



■ 「SPAI」を使った課題の解決

- ・ レジの無人化
- ・ 無人店舗の実現



設置型AI搭載レジ「ワンダーレジ」を開発



レジ無しスルー型「スーパーワンダーレジ」を開発

3-5.(1) 技術

■ SPAI

- ・ サインポストが独自に開発した人工知能
⇒ 特許を多数出願

■ 特徴

- ・ 画像から様々な特徴を捉えて商品や人を認識
- ・ 文字、数字等を認識
- ・ 識別ができないものは「わからない」とアウトプット
- ・ RFID(ICタグ)やバーコードが不要

■ 用途

- ・ 商品認識
- ・ ラベル認識
- ・ 物体追跡
- ・ 人の追跡
- ・ マーケティングへの応用

3-5.(2) 製品

■ 設置型AI搭載レジ「ワンダーレジ」



- 利用者自らが購入したい商品をレジの中に置き、画面をタッチするだけで精算できる無人レジ。
- 複数の商品を一括で認識するので、素早くお買い物ができます。

■ レジ無しスルー型「スーパーワンダーレジ」



- レジ作業を必要としない完全スルー型システム。
- 利用客は、商品を手に取るだけで精算することができます。

3-5.(3) ポプラ系列「生活彩家」にワンダーレジを設置



場所	生活彩家 貿易センタービル店
稼働開始日	2019年4月12日
取扱商品	弁当、おにぎり、パン、菓子、 飲料、お酒等 約1,500種類
決済方法	交通系電子マネー

3-5.(4) 無人AIレジの主な特徴

AIと人が協調する ハイブリッド方式	• 無人AIレジが高精度に商品を認識 • 無人AIレジが「わからない」と答えたものだけを人が確認 • お酒やタバコ等は人が年齢確認するオペレーションを構築
コストと環境に配慮した 新型ワンダーレジ	• 筐体に再利用可能な段ボールを使用 • コストの削減と環境負荷の軽減を両立
POS等の既存システムを そのまま利用	• 無人AIレジからは、JANコードをPOS等へ送信 • JANコードを利用することで既存システムを活かして導入することが可能
無人AIレジの機能を利用した マーケティング	• SPAIが利用者の年齢と性別を高精度に分析 • スーパーワンダーレジの人追跡技術で利用者の導線を記録、分析 ※ 顔写真等の個人情報は保存しません

3-5.(5) 新型ワンダーレジの開発

■ 段ボール製ワンダーレジ



1. コスト低減

- 合成樹脂に比べて素材が安価
- 金型が不要
- 量産性に優れる
- 軽量化と荷姿の改善で輸送コストを低減

2. 保守性の向上

- 現地での組み立てが可能
- 筐体の交換が簡単

3. 環境対応

- 筐体はリサイクル可能
- 軽量化による輸送CO2削減

段ボールを使用した筐体

- 機能は従来のワンダーレジと同等
- 従来のワンダーレジに比べて小型化、軽量化
- ESG・SDGsに貢献

3-5.(6) POS等の既存システムをそのまま利用

JANコードを利用することで既存のシステムを活かして導入が可能

従来のレジ



ワンダーレジ



スーパーワンダーレジ



レジ内で商品名とJANコードを紐づけ



3-5.(7) これからの展開



4. 参考資料

当社無人AIレジの利用シーン

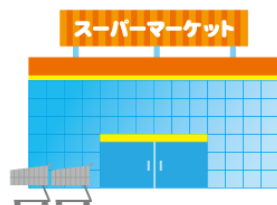
利用シーン① 機会損失の解消



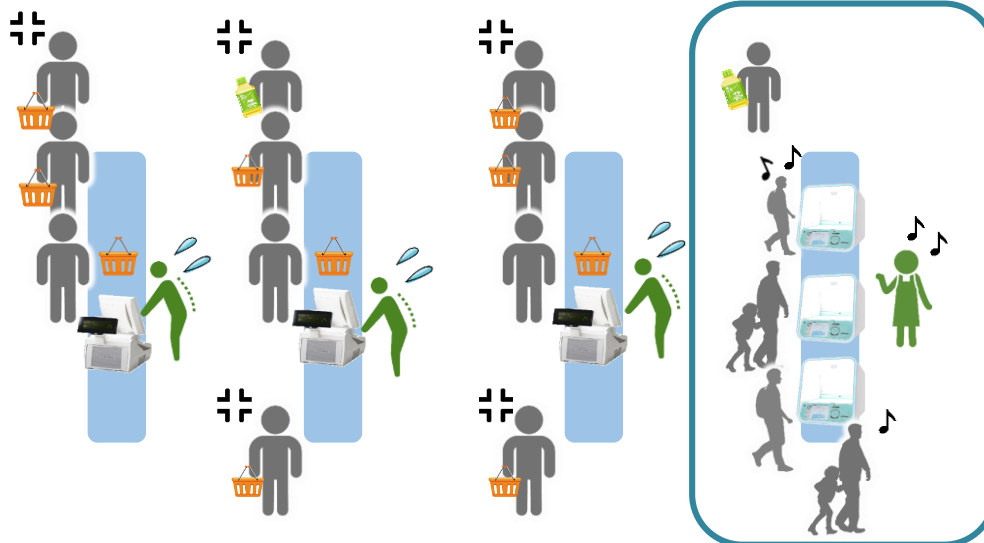
- ・人手不足(人員コスト)による出店ハードルの引下げ
 - レジ店員減
 - 朝・昼ピーク時増員不要
 - 営業時間の拡大(夜間帯無人化 等)
- ・レジ業務の省力化
 - 店員の定着
 - レジ待ち行列の解消



利用シーン② エクスプレスレーン



- ・スーパーマーケット等
 - － 少量購入客の機会損失を改善
 - － 買い物待ち時間短縮



利用シーン③ 職域内小規模店舗(オフィス、工場 等)



・福利厚生の充実

- 売店人件費の削減で商品の拡充や低価格化
- 販売時間の延長で利用時間を拡大
- 決済の簡易化(置くだけ)で利便性を向上



利用シーン④ 買い物客の不正の抑止（財務ロス抑止）



スーパーマーケット



ディスカウントストア



ドラッグストア



書店



購入者の年齢、性別を
推定するためにカメラを設置



手に取った全ての商品を精算

利用シーン⑤ ほかにも・・・



・駅や空港

- 電車や飛行機の待ち時間内で素早く買い物



・特産品販売所

- 野菜や特産品などバーコードの付いていない商品の買い物



・スタジアム、イベント会場販売

- 混み合う時間の機会損失の改善
- 人手不足の解消

本資料の取扱いについて

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

実際の業績等は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況の他、様々な要因によって見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

当社は、これらの情報を最新のものに随時更新するという義務や方針も有しておりません。また本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

孫の代まで豊かな日本を

